

【原 著】

「大1コンフュージョン」の実際（第3報）
—ライフスキル，意欲低下，心理的ストレス反応との関連—

原田 新 池谷 航介

Study of “Confusion after the Entrance to Higher Education” Ⅲ
The Relationships among “Confusion after the entrance to Higher Education”,
Life Skills, Passivity Area, and Psychological Stress Response.

Shin HARADA, Kosuke IKETANI

2019

岡山大学教師教育開発センター紀要 第9号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education
and Development, Okayama University, Vol.9, March 2019

原 著

「大1コンフュージョン」の実際 (第3報)

—ライフスキル, 意欲低下, 心理的ストレス反応との関連—

原田 新※1 池谷 航介※1

本研究では, 大1コンフュージョンに陥りやすい大学新入生の様々な特徴について調べることを目的に, 日常生活スキル尺度 (大学生版), 意欲低下領域尺度, 心理的ストレス反応尺度との関連について検討した。相関分析の結果, 大1コンフュージョン (大学生生活全般) は, 8種類のライフスキルおよび「学業意欲低下」とはほぼ無関連であったが, 「授業意欲低下」, 「大学意欲低下」および3種類のストレス反応とは中程度の正の相関がみられた。また大1コンフュージョン (一人暮らし) は, 8種類のライフスキルおよび「学業意欲低下」, 「大学意欲低下」, 「不機嫌・怒り」とはほぼ無関連であったが, 「授業意欲低下」, 「抑うつ・不安」, 「無気力」とは弱い正の相関がみられた。今後, スケジュール管理スキルや援助要請スキル等, 今回測定できていないが大学適応に重要と考えられるライフスキルと, 大1コンフュージョンとの関連についても検討を行う必要がある。

キーワード: 大1コンフュージョン, 高大接続, ライフスキル, 意欲低下, ストレス反応

※1 岡山大学全学教育・学生支援機構学生総合支援センター

I 問題と目的

学校段階間の移行に伴う児童・生徒の不適応の問題を表す現象として, 「小1プロブレム」, 「中1ギャップ」, 「高1クライシス」などの概念が社会的に注目されている (渡邊・堤, 2017)。一方, 高校までの学校段階とのギャップに由来する大学1回生の困難さについての記述は散見されるが (朝比奈, 2010; 専修大学出版企画委員会, 2009; 世界思想社教学社, 2010), 高校から大学への移行に伴う困難さについての社会的な注目度は未だ低い。筆者らは, そのような「高校までの学校段階と大学との様々なギャップ」に対し, 多くの大学1回生が入学後に強い戸惑いや困難を感じることを「大1コンフュージョン」と命名した (原田・池谷・松井・望月, 2018)。その上で, 大学1回生が戸惑いや困難を感じやすい具体的な場面・状況についての項目収集を行い, 大1コンフュージョン (大学生生活全般) 項目群および大1コンフュージョン (一人暮らし) 項目群を作成した。さらに, そのようなギャップが, 発達障がい学生の適応に大きな影響を与える場合があるとされることから (高橋, 2012), 大1コンフュージョンとASD困り感質問紙, ADHD困り感質問紙との関連について検討した。

先の研究で, 大1コンフュージョンに関するある程度の項目収集はできた一方, まだ大1コンフュージョンへの対応策を考える上で, 分かっていないことは多い。例えば, 大1コンフュージョンに陥りやすい (あるいは陥りにくい) 大学新入生の特質や, 大1コンフュージョンが学業面やメンタルヘルスに及ぼす影響等について検討することで, 高校から大学への移行支援や, 新入生の初期適応を促す支援を考える際の有益な資料を得られる可能性がある。そこで本研究では, 大1コンフュージョンと他変

数との関連について検討し、大1コンフュージョンに陥りやすい大学新入生の様々な特徴について調べることを目的とする。

まず、発達障がい学生は、その特性ゆえにライフスキルの獲得に困難を示すことがあり、その結果学習面をはじめ大学生活に破たんをきたし得ると指摘される(高橋, 2012)。この指摘からは、ライフスキルの不足と大学不適應との関連が示唆されている。どのような学生でも、入学直後には多かれ少なかれ大1コンフュージョンを経験し得ると考えられる為、一概に大1コンフュージョンがそのまま大学不適應を意味するとまではいえないものの、大学新入生のライフスキルの不足が大1コンフュージョンの誘因となっている可能性は十分に考えられる。そこで、大1コンフュージョンと日常生活スキル尺度(大学生版)(島本・石井, 2006)との関連について検討し、多様なライフスキルの中でも特にどれが大1コンフュージョンと関わりやすいのかについて調べることをとする。

次に、大1コンフュージョンの学業面やメンタルヘルスとの関わりについて検討する為、意欲低下領域尺度(下山, 1995)と心理的ストレス反応尺度(鈴木他, 1997)との関連について検討する。大1コンフュージョンを強く経験する学生が、大学生活における意欲低下や強い心理的ストレスを感じやすいことは容易に予測できる。しかし2種類の大1コンフュージョン(大学生活全般, 一人暮らし)が、3種類の領域の意欲低下(学業意欲低下, 授業意欲低下, 大学意欲低下)や、3種類の心理的ストレス反応(抑うつ・不安, 不機嫌・怒り, 無気力)全てに強く関連するか否かについては未知数である。その為、これらの関連を調べることで、各大1コンフュージョンが、特にどの領域の意欲低下やどの心理的ストレス反応に関連しやすいのかについて検討する。

以上のように本研究では、大1コンフュージョンとライフスキル, 意欲低下, 心理的ストレス反応との関連について検討する。その上で、大1コンフュージョンに陥りやすい大学新入生の特徴についての理解を深めることが、本研究の目的である。

II 方法

1 調査協力者および調査時期

2017年4月に入学した大学1回生259名(男性106名, 女性153名, 18~22歳, 平均年齢18.87歳, $SD=0.67$)であった。調査時期は2017年12月であった。

2 測定尺度と統計パッケージ

(1) 大1コンフュージョン(大学生活全般)項目群(原田他, 2018)

全31項目。調査の実施時期が12月で、大学1回生とはいえ既に大学生活にずいぶん慣れてきている時期であると考えられた為、入学した当初のことについて回答するよう依頼した。「1. 全く困らなかった」~「5. とても困った」の5件法。

教示文:「あなたは大学に入学した当初, 以下の場面や事柄にどの程度とまどったり, 困ったりしましたか。それぞれあてはまるものをひとつずつお選びください。」

(2) 大1コンフュージョン(一人暮らし)項目群(原田他, 2018)

全8項目。これら8項目については，一人暮らし経験者のみ（調査協力者259名のうち94名）を対象とした。また（1）と同様，一人暮らしを始めた当初のことについて回答するよう依頼した。「1. 全く困らなかった」～「5. とても困った」の5件法。

教示文：「大学に入学した当初から現在までに，実家から離れて生活したこと（一人暮らし）がある方におうかがいします。あなたは実家から離れて生活し始めた当初，以下の場面や事柄にどの程度とまどったり，困ったりしましたか。それぞれあてはまるものをひとつずつお選びください。」

（3）日常生活スキル尺度（大学生版）（島本・石井，2006）

「親和性」，「リーダーシップ」，「計画性」，「感受性」，「情報要約力」，「自尊心」，「前向きな思考」，「対人マナー」各3項目。「1. ぜんぜん当てはまらない」～「4. とても当てはまる」の4件法。

（4）意欲低下領域尺度（下山，1995）

「学業意欲低下」，「授業意欲低下」，「大学意欲低下」各5項目。「1. 全く当てはまらない」～「4. とてもよく当てはまる」の4件法。各意欲低下は，以下のような内容を表す。

「学業意欲低下」とは，「教師に言われなくても自分から進んで勉強する。（逆転項目）」「勉強に関する本を読んでもすぐに飽きてしまう。」など，勉学への興味を失い，学業に対して意欲が低下した状態を指す。「授業意欲低下」とは，「授業に出る気がしない。」「朝寝坊などで授業に遅れることが多い。」など，授業に対して意欲が低下した状態を指す。「大学意欲低下」とは，「学生生活で打ち込むものがない。」「大学ではいろいろな人と交流がある。（逆転項目）」など，大学キャンパスへの所属感がなく，大学に対して意欲が低下した状態を指す。

（5）心理的ストレス反応尺度（鈴木他，1997）

「抑うつ・不安」，「不機嫌・怒り」，「無気力」各6項目。ここ2，3日の感情や行動の状態にどのくらい当てはまるかについて尋ねた。「0. 全くちがう」～「3. その通りだ」の4件法。

なお，以降の分析では統計処理用ソフトのSPSS Statistics 22を用いた。

3 調査手続き

本研究では，インターネット調査会社の(株)マクロミルに調査を依頼し，マクロミルに登録しているアンケートモニターを対象に調査を実施した。アンケートモニターが回答する調査画面の最初に，(1) 回答の途中で気分が悪くなったり，これ以上答えたくなかったと感じられた場合は，途中で回答を止めても構わないこと，(2) 回答内容は集団データとして扱う為，個人の回答内容は特定されないこと，(3) 分析結果が学術研究以外の目的に使用されることは一切ないこと，(4) データはパスワードによって保護されたディスクで厳重に保管され，全調査終了後から5年後には破棄されることを明記した。これらを一読後，調査協力に同意する場合には，画面最後

の「同意する」ボタンをクリックした上で、次ページに進んでもらうこととした。

Ⅲ 結果

1 大1コンフュージョンとライフスキルとの関連

まず、2種類の大1コンフュージョンと、日常生活スキル尺度の各下位尺度との関連について、相関分析により検討した (Table1)。その結果、大1コンフュージョン (大学生生活全般)、大1コンフュージョン (一人暮らし) は共に、いずれのライフスキルとも-.14 ~ .06という絶対値で.2を切るほぼ無関連の値を示した。

Table 1. 大1コンフュージョンとライフスキルとの相関

	親和性	リーダーシップ	計画性	感受性	情報要約力	自尊心	前向きな思考	対人マナー
大1コンフュージョン (大学生生活全般)	.00	-.06	-.10	-.01	-.14 *	-.10	-.08	-.14 *
大1コンフュージョン (一人暮らし)	-.07	-.11	-.09	.06	-.04	-.10	-.14	.05

* $p < .05$

2 大1コンフュージョンと意欲低下、心理的ストレス反応との関連

次に、2種類の大1コンフュージョンと、意欲低下、心理的ストレス反応の各下位尺度との関連について、相関分析により検討した (Table2)。その結果、大1コンフュージョン (大学生生活全般) は、「学業意欲低下」とはほぼ無関連であったが、「授業意欲低下」と「大学意欲低下」とはそれぞれ.30, .33という中程度の有意な正の関連を示した。また大1コンフュージョン (一人暮らし) は、「授業意欲低下」とは.24という弱い有意な正の関連を示したが、「学業意欲低下」と「大学意欲低下」とは.2を切るほぼ無関連の値であった。

心理的ストレス反応の3下位尺度とは、大1コンフュージョン (大学生生活全般) がその全てと.38 ~ .41という中程度の有意な正の関連を示した。また大1コンフュージョン (一人暮らし) は、「不機嫌・怒り」とは.2を切るほぼ無関連の値、「抑うつ・不安」とは.24という弱い有意な正の関連、「無気力」とは.30という中程度の有意な正の関連を示した。

Table 2. 大1コンフュージョンと意欲低下、心理的ストレス反応との相関

	<意欲低下領域尺度>			<心理的ストレス反応尺度>		
	学業意欲低下	授業意欲低下	大学意欲低下	抑うつ・不安	不機嫌・怒り	無気力
大1コンフュージョン (大学生生活全般)	.08	.30 ***	.33 ***	.41 ***	.38 ***	.39 ***
大1コンフュージョン (一人暮らし)	.13	.24 *	.14	.24 *	.18	.30 **

* $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$

Ⅳ 考察

1 ライフスキルとの関連について

大1コンフュージョンと日常生活スキル尺度との関連を検討した結果、2種類の大1コンフュージョンは共に、いずれの下位尺度ともほぼ無関連であることが示された。

この結果は、大1コンフュージョンに陥りやすい大学新入生の中には、ライフスキルの高い人も低い人もいることを示唆するものであり、必ずしもライフスキルを高めることが、大1コンフュージョンの対応策になり得るわけではないことを意味するものといえる。

しかしながら、今回ライフスキルの測定指標として用いた日常生活スキル尺度の8下位尺度では、測定し切れていないライフスキルも存在する。小貫・村山・重留・工藤（2016）は、大学適応および就労準備に向けて、「時間管理」、「職場マナー（学内マナー）」、「職場ルール（学内ルール）」、「体調管理」、「ストレスコントロール」の5つのスキルの必要性を指摘し、STARTプログラムと名付けたライフスキルトレーニングの実施事例を紹介している。小貫他（2016）の挙げる5つのスキルと、日常生活スキル尺度の8下位尺度を見比べると、前者の「時間管理」や「職場マナー（学内マナー）」が後者の「計画性」や「対人マナー」に一部重なるなど、内容的に対応する部分も少しあるものの、5つのスキルの多くは日常生活スキル尺度には含まれていない。

また、池谷・原田（2018）は、昨今大学での予防的な援助サービスとして、レポート作成法・プレゼンテーション実習・情報処理入門・図書館活用法等のアカデミックスキルに加え、スケジュール管理方法・金銭管理方法・友人との対人関係維持・援助要請促進といったライフスキルに関連するサポートの必要性が高まってきていると指摘している。ここで挙げられているようなスキルも、日常生活スキル尺度にはあまり含まれていない。

特に大学では、日常的に声をかけてもらえる状況が得られにくいことから、苦戦に直面した際に自ら援助を要請できるスキルが重要となるが（池谷・原田，2018）、このような援助要請スキルは、大1コンフュージョンの軽減に向けても極めて重要になると考えられる。しかし今回、日常生活スキル尺度の中で援助要請に対応すると考えられる「親和性」は、大1コンフュージョンとほぼ無関連である結果が示された。ただし「親和性」の項目を見ると、「困ったときに、友人らに気軽に相談することができる。」「親身になって友人らに相談に乗ってもらえることができる。」など、友人への援助要請に特化した内容となっている。本来相談できる対象は、友人に限るものではなく、例えば家族、大学の教職員、大学の相談部署、大学外の知人など他にも多数存在する。その為、友人以外の対象も含めた援助要請スキルであれば、大1コンフュージョンの軽減に関連する可能性はある。

2 意欲低下、心理的ストレス反応との関連について

まず、大1コンフュージョンと意欲低下との関連については、どちらの大1コンフュージョンも「学業意欲低下」とはほぼ無関連であったのに対し、「授業意欲低下」とはある程度の正の相関が示された。大1コンフュージョンは、大学1回生の初期段階であれば誰でも多かれ少なかれ経験し得るものと想定されるが、多くの大学1回生は様々な大学特有の場面・状況に順応していく中で、次第に大1コンフュージョンを軽減していくと考えられる。その意味では、大1コンフュージョンは多くの学生にとって大学生生活の初期段階の一時的なものといえる。例え一時的であっても、大1コン

フュージョンのさなかにある大学1回生にとって、目の前にある授業への出席や授業での課題作成・提出等に対する意欲低下が一時的に生じるのは、ある意味自然なことといえよう。一方、大学1回生が一時的に大1コンフュージョンに陥ったとしても、いきなり学業そのものへの意欲低下が生じるのではなく、大1コンフュージョンが低下せずに長期化し、学業そのものへの無力感や拒否感等が高まった場合に「学業意欲低下」が生じると推測される。その為、大学入学当初の大1コンフュージョンと「学業意欲低下」がほぼ関連しないという結果は、それほど不自然なものとはいえないであろう。

また「大学意欲低下」とは、大1コンフュージョン（大学生生活全般）のみ、ある程度の正の相関を示した。「大学意欲低下」は、その測定項目の中に「大学ではいろいろな人と交流がある。（逆転項目）」、「大学のなかで自分の居場所がないと感じる。」を含むなど、対人関係面での問題に由来する意欲低下という側面が強い。大1コンフュージョン（大学生生活全般）項目群の方にも、友人関係や人間関係の構築困難に関する項目が複数含まれていることから、大1コンフュージョン（大学生生活全般）と「大学意欲低下」が正の関連を示したと考えられる。なお、意欲低下の3下位尺度の中では、「大学意欲低下」が最も心理的混乱や障害、発達的問題を予測し得る深刻な事態であると指摘される（下山，1995）。その為、大1コンフュージョン（大学生生活全般）は決して軽視して良いものではなく、場合によっては大学意欲低下に伴うより深刻な問題まで生じさせてしまう可能性もあることは注意しておくべきことである。

続けて、心理的ストレス反応との関連については、大1コンフュージョン（一人暮らし）が「不機嫌・怒り」とほぼ無関連であった以外は、ほぼ予測通りにある程度の正の相関が示された。その中で、大1コンフュージョン（大学生生活全般）の方が、大1コンフュージョン（一人暮らし）よりも相対的に心理的ストレス反応尺度の3下位尺度と強い関連を示した。大1コンフュージョン（一人暮らし）における戸惑いや困難は、家族に相談したり、インターネット等で自分で調べたりすることなどにより、比較的解決しやすいことも多いと考えられる。それに対し、大1コンフュージョン（大学生生活全般）は、戸惑いの生じる場面や状況が多岐にわたる為、自力では容易に解決できない場合や、誰に相談したら良いのか分かりにくいことも多い。その為、大1コンフュージョン（大学生生活全般）の方が、より心理的ストレス反応と強い関連を示したのではないかと考えられる。

3 今後の課題

まず先述の通り、今回測定できていないその他の種々のライフスキルと大1コンフュージョンとの関連をさらに検討していく必要がある。それにより、どのようなライフスキルが大1コンフュージョンと関連するのか、あるいはいずれのライフスキルも大1コンフュージョンとは関連しないのかについて明らかにすることで、今後の支援策を考える上でのヒントが得られる可能性がある。

また、今回は一時点の横断的なデータを用いたが、大1コンフュージョンは実際に大学1回生の間に軽減するのか、軽減するのであればどの時点で軽減するのか等、大1コンフュージョン得点の変化について縦断データを用いて検討する必要がある。さ

らに，その縦断データを用いて，ライフスキルの向上が大1コンフュージョンの軽減に寄与するのか，あるいは大1コンフュージョンの軽減が，意欲低下や心理的ストレス反応の軽減に寄与するのか等の，因果関係や共変関係についてもあわせて検討していく必要があるであろう。

参考・引用文献

- 朝比奈 なを (2010). 高大接続の“現実” “学力の交差点”からのメッセージ 学事出版
- 原田 新・池谷 航介・松井 めぐみ・望月 直人 (2018). 「大1コンフュージョン」の実際（第1報）—高校と大学のギャップに戸惑う新入生の実態調査— 岡山大学教師教育開発センター紀要, 8, 97-107.
- 池谷 航介・原田 新 (2018). 「大1コンフュージョン」の実際（第2報）—大学生活を支える段階的な援助サービス— 岡山大学教師教育開発センター紀要, 8, 173-180.
- 小貫 悟・村山 光子・重留 真幸・工藤 陽介 (2016). 大学への適応と就労に向けたライフスキルトレーニング 高橋 知音 (編) 発達障害のある大学生への支援 (pp. 41-51) 金子書房
- 世界思想社教学社 (2010). 大学生になる前に知っておきたいこと 教学社
- 専修大学出版企画委員会 (2009). 改訂版 知のツールボックス 専修大学出版局
- 島本 好平・石井 源信 (2006). 大学生における日常生活スキル尺度の開発 教育心理学研究, 54, 211-221.
- 下山 晴彦 (1995). 男子大学生の無気力の研究 教育心理学研究, 43, 145-155.
- 鈴木 伸一・嶋田 洋徳・三浦 正江・片柳 弘司・右馬埜 力也・坂野 雄二 (1997). 新しい心理的ストレス反応尺度 (SRS-18) の開発と信頼性・妥当性の検討 行動医学研究, 4, 22-29.
- 高橋 知音 (2012). 発達障害のある大学生のキャンパスライフサポートブック 学研教育出版
- 渡邊 賢二・堤 貴之 (2017). 大学新入生の友人関係の変化と適応感との関連：短期縦断調査より 皇學館大学紀要, 55, 1-17.

Study of “Confusion after the Entrance to Higher Education” III
The Relationships among “Confusion after the entrance to Higher Education”,
Life Skills, Passivity Area, and Psychological Stress Response.

Shin HARADA*1, Kosuke IKETANI*1

The present study examined relationships among “Confusion after the entrance to higher education”, life skills, passivity area, and psychological stress response. The results of correlation analyses showed that “Confusion after the entrance to higher education (university life)” was not associated with all of eight life skill subscales, and “passivity in the area of academics”, whereas was associated positively with “passivity in the area of class”, “passivity in the area of campus”, and all of three stress response subscales, and that “Confusion after the entrance to higher education (living by oneself)” was not associated with all of eight life skill subscales, “passivity in the area of academics”, “passivity in the area of campus”, and “Irritability-Anger”, whereas was associated positively with “passivity in the area of class”, “Depression-Anxiety”, and “Helplessness”.

Keywords: confusion after the entrance to higher education, articulation between high schools and universities, life skill, passivity area, psychological stress response

*1 Institute for education and student services, Okayama University
